

桐生の日本遺産

「かかあ天下-ぐんまの絹物語-」の構成文化財を巡れば、
最先端の活躍をした女性たちの姿が見えてくるはず。
天下を牽引する活躍を見せたキャリアウーマンたちの
足跡をたどってみてはいかがでしょうか。



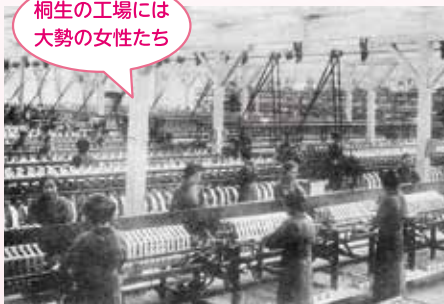
日本遺産



JAPAN HERITAGE

日本遺産とは、文化庁が認定する地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーです。平成27年4月に、18件のストーリーが、日本遺産として認定されました。この日本遺産の一つとして、群馬県内4市町村(桐生市、甘楽町、中之条町、片品村)にある12件の資産から構成される「かかあ天下-ぐんまの絹物語-」が認定されました。そして、その12件のうち6件が桐生市にあるのです。日本で初めて認定された日本遺産。その構成資産である絹にまつわるスポット12件のうち、6件もが桐生市にある。この一事をもって、桐生がいかに優れた織物のまちであるかをご理解いただけるかと思います。

桐生の工場には
大勢の女性たち



大正9年頃の
桐生の働く女性



「かかあ天下」の ストーリー

古くから絹産業の盛んな上州では、女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え、近代になると、製糸工女や織手としてますます女性が活躍しました。夫(男)たちは、「おれのかかあは天下」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物になるとともに、現代では内に外に活躍する女性像の代名詞ともなっています。「かかあ」たちの夢や情熱が詰まった養蚕の家々や織物の工場を訪ねることで、日本経済を、まさに天下を支えた日本の女性たちの姿が見えてくる……というものです。女性の活躍が目覚ましい現代ですが、「かかあ天下」として知られる上州ぐんまは、時代をリードするパイオニア的存在であったといえます。